

平昌(ピョンチャン)冬季オリンピック

～選手の努力と熱い思いをきっかけに～

大会前は、あまり盛り上がっていない感じがしていましたが、始まってしまうと日本勢の活躍が大きく報道され、興味を持って観戦する人も多くなってきたのではないのでしょうか。

今回取り上げるのは、皆さんもよく知っている高梨沙羅選手です。2月13日(火)の神戸新聞朝刊にも大きく取り上げられていましたので、下に記事と写真(デジタル版より)を掲載しました。

高梨選手は、優勝候補と言われていたソチ冬季五輪で、4位に終わってしまい、随分辛かったと思います。ワールドカップ等でも、絶対的な強さを誇ってきた選手でしたので、そのプレッシャーも相当なものだったのでしょうか。

また、昨季までは素晴らしい成績を残してきた高梨選手でしたが、今季にはノルウェーとドイツの2人の強敵が躍進してきたこともあり、今回のオリンピックはかなり厳しい戦いになったようです。

しかし、4年前の雪辱を果たすために、大きなプレッシャーの中、精神的にも、技術的にも成長させてきたのは、立派であるとともに大変な苦勞だったと思います。

オリンピック報道を通じて、感動だけでなく、選手の苦勞や思いを知ることのできる時期でもあります。皆さんも、ここまでのことはできないかもしれませんが、自分なりに努力し、自分を成長させていけば、きっと自分の思いは叶うとおもいますよ。いつも話をしていますが、「きっかけ」と「気づき」を大切に！！

【平昌共同】平昌冬季五輪第4日の12日、ノルディックスキー・ジャンプ女子で日本のエース、高梨沙羅(21)＝クラレニが、念願の銅メダルを手にした。

ジャンプ勢は2014年ソチ五輪の男子ラージヒルで葛西紀明(45)＝土屋ホーム＝が2位、団体が3位になっており、2大会連続の表彰台。女子では初のメダルで、通算12個目となった。



ジャンプ女子が初採用されたソチ五輪に17歳で出場した高梨は、絶対的な優勝候補だったが力を発揮できずに4位に終わった。悔しさをばねに成長し、ワールドカップ(W杯)でジャンプの男女を通じて歴代最多に並ぶ通算53勝に到達した。